

3) 学生会

・工学部学生会の活動状況

2004 年度に、工学部学生支援委員会の指導の下で、全ての学科・系に学生の自治組織である学生会が設立された。2005 年度には、全学の学生委員会から出された「学生の公的組織化の要請」に基づき、各学科・系の学生会を統合した工学部学生会が組織された。この際、各学科の学生会代表が工学部学生会のメンバーとなること、および工学部学生会は、工学部(学士課程)の学生だけでなく、大学院自然科学研究科の工学系の学生も合わせて組織することとした。

2014 年度の工学部学生会は各学科代表 17 名で構成され、会長には今村教博(数理工学科 3 年)、副会長には増本哲也(社会環境工学科 3 年)、会計に岸川惇貴(数理工学科 3 年)、書記に日高優夏(情報電気電子工学科 2 年)、松本耕平(情報電気電子工学科 2 年)がそれぞれ選出された。

工学部学生会では工学部学生会室を拠点として定期的に学生会会議を行い、工学部学生会の運営方針や各学科の学生会の現状と問題点、今後の工学部学生会の活動内容などについて意見交換を行なっている。また、工学部運動会の運営や留学生との交流会などの自主的な活動を行っている。また、秋季に開催される工学部長と学生代表の懇談会では工学部の学生を代表して意見や要望を述べ、学生会長、副会長及び会計は、さらに学長と学生代表の懇談会にも出席している。

・学生会主催による復活第七回運動会

1952 年 10 月 26 日に工学部グラウンドで新制大学の第 1 回工学部運動会が開催されて以来、熊本大学工学部運動会が開催されてきたが、年々参加者の減少は止まらず 1999 年の第 47 回運動会を最後に工学部運動会が中止された。

一方、工学部では学生の自治組織を育成するという大学の方針に従い、工学部学生会を積極的に支援してきた。運動会中止の決定の後、学生会はスポーツ大会等の企画・運営を行っていたが、2007 年には運動会再開の声に後押しされる形で、全競技を一日で行う集合型のスポーツ大会を企画した。その際のスポーツ大会の参加者は 200 名を超えており、この種のスポーツ大会のニーズが学生の中に十分にあることが確認された。そこで学生会は先輩の運動会復活の想いを引き継ぎ、復活第一回工学部運動会を 2008 年 10 月 25 日(土)に開催した。

それ以来、学生会が中心となり、毎年運動会を開催しており、2012 年度は 2013 年 10 月 19 日(土)に、坪井川湧水公園にて第六回工学部運動会を開催した。

運動会の名物である応援団の演舞も前年より社会環境工学科、マテリアル工学科、情報電気電子工学科も加わり、合計 3 学科で披露された。日頃あまり声を出すことが少ない学生も、運動会では学科毎に一丸となって競い合い、工学部学生の重要なイベントとして非常に盛り上がっていると言える。

昨年度は開催が大学の諸行事と重なり武夫原で開催するすることが出来ず、学外の坪井川湧水公園開催となった。

本年度は昨年度の反省に基づき、早期に武夫原にて開催を計画・準備を進めてきたが、開催当日台風直撃との気象情報から、安全性等を考慮して中止となった。来年度の開催が期待される。

・学部長と学生代表の懇談会

2014 年 11 月 4 日(水) 18:00-19:25 工学部 1 号館共用会議室 B において、学生会と工学部長との懇談会を実施した。学生側から学生会会長・菊池拓仁ほか各学科学生会代表 1 名、工学部側から工学部長、両副学部長、教務委員長、学生支援委員長、各学科学生支援委員、工学部教務担当係長の計 14 名が参加した。

今回は懇談会実施前に学生会より提出されていた〈要望・提案〉に回答するかたちで懇談会が進められ、その後、参加者による質疑応答形式のフリートークを行った。

学生から・24 時間自習室の設置・放置自転車の撤去・講義室のコンセント増設・講義室前部の消灯システム等 7 件の要望提案に対して、予算処置が出来る範囲で要望の実現を図ることとし、また放置自転車等の処置については学生会の協力を要請した。

また、従来より行っているフリートークにおいては、工学部運動会の早期準備計画実施・災害時の休講情報の早期配信整備等のや施設に関する要望などが出され、活発な意見交換がなされた。更に、学生会に対して、日頃から学生同士のコミュニケーションを図り、学生会同士で議論し、意見をくみ取れるような学生会にしてほしい、自分たちでやれること（放置自転車のリサイクル等）をビジネスに結びつけることも併せて、これから考えてほしい、との要望が工学部より要望がなされた。